

SHIN CLUB 100

(株)ユニホー辰カンパニー 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



今月のトーク/monthly talk

「Klarheit 三宿 I」 撮影：阿野太一

100 号を迎えました

2000 年 4 月からスタートした、「Shin Club」は、今月で 100 号を迎えることになりました。これまで、快く取材に応じてくださった、建て主の皆様、設計の先生方、専門業者の皆様にあらためてお礼申し上げます。

1999 年 8 月前身会社の破綻にともない、17 件の施工現場を抱えていた弊社は、㈱ユニホーの支援により工事を続け、それらを完成させることができました。その中の 1 件が、上の写真の「クラールハイト三宿 I」の設計者、北山恒氏の設計による「Omni Quarter」です。建築プロデューサー濱野安弘氏の自邸であるこの建物は、「建築の消失」を意識したガラスと鉄骨からなるもので、構造や設備はもちろん、新しい都市生活者の暮らし方を探る画期的な建物でした。そして、この「Omni Quarter」や木下道郎氏設計の「BALCON」など、ほかにもいくつかの物件が雑誌に掲載されて、お客様から信頼をいただくことができたのです。この当時のお客様、設計事務所の皆様には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

おりしも、この 7 月創刊 100 号を迎えた「Casa Brutus」に代表されるように、数年前までは施工専門会社や設計者向けに限られていた建築メディアが一般消費者に向けて発行されるようになったため、建築デザインに対する一般の人々の興味は飛躍的に高まりました。それに伴い、弊社で施工させていただいた建築家の先生方の物件もさらに専門誌や一般誌に多数掲載されることになり、一つ一つの建物を丁寧に作っていく施工会社としてのポジションがより明確になったのです。

一方で、「Shin Club」は、皆様に竣工物件や社内情報をお伝えすることで、建築施工に対する多くの方のご理解を深めたいということ、

また会社としての施工情報を社員全体で共有でき、よりお客様に自社の説明をしやすい営業ツールとして利用していくことを目的に、これまで歩んでまいりました。弊社の得意な施工分野である RC 造の建物を中心に、毎月ご紹介できる竣工物件があったことは、現場を預かる担当者たちの熱い気持ちがあったことに他なりません。そして、自分たちで自分たちの仕事を発信することの意義もここにある、と信じています。

前回、皆様に簡単なアンケートにご協力をいただきました。限られた予算の中、DTP や WEB ページのデザインは、よりご覧いただきやすくするための改良点が多々あるかと存じますが、いただいたご意見の中には、「WEB でなんでもすぐに見られるこの時代に、紙媒体の情報誌であるところが良い」「すぐに見られて、持ち歩けるコンパクトな点がいい」というものもありました。また、新鮮な情報や現場での施工体験、なかには「失敗談なども参考になるので、ぜひ載せてほしい」というご意見も頂戴しました。多くの方が「毎月楽しみにしている」と書き添えてくださり、編集担当としては、うれしい限りです。

毎号、編集記事は工事完成との兼ね合いが求められ、取材先の皆様にもいろいろとご協力、ご迷惑をおかけしておりますが、皆様のご意見をさらに反映した紙面づくりにまい進したいと存じますので、これからも情報やご提案などありましたら、ぜひご一報ください。

現在「辰カンパニー」としての社員は 41 名、発足後新たに入社した社員が半数を占めるようになりました。施工現場にかける熱い思いをもった若者が新たに辰カンパニーで成長しています。皆様のご支援、ご協力を今後ともよろしくお願い申し上げます。

クラールハイト三宿 I

三層構造のガラス・ファサードが作る、都心型プロトタイプ



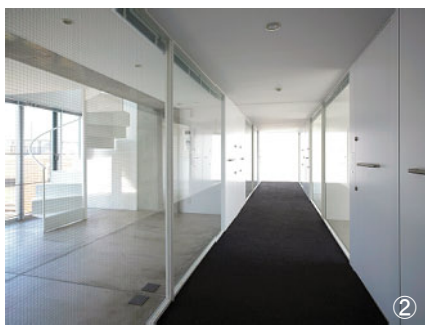
休日の渋谷は、おもちゃ箱をひっくり返したような騒ぎで、人が住める場所ではなくなったが、三宿周辺は商業地からも近く、また住宅地の中におしゃれなレストランやSOHOオフィスもあるようなエリアである。比較的小規模のビル開発に力を入れているクライアントから、都市型ビルのプロトタイプの設計を依頼された。

建物はガラス・ファサードで三層構造となっており、まず地上1階までの低層部分は都市に属するものとして、テナントのさまざまな使用に応えられるようにガラとした大きな空間としている。

居住空間の中間層は3つのフロアで構成され、真ん中の階をアクセスフロアとして、上下階を分け合う6戸のメゾネットタイプの住宅になっている。この中層階への入口にセキュリティをかけ、アクセスフロアの中央廊下の両側に透明のガラス・パーテーションだけで仕切られた仕事場にもなるエントランスホールが並ぶ。居住者の仕事や生活がお互いに関わることでの共同体が生まれるかもしれない。外壁のガラスを通して外からも居住者の暮らしぶりが見えて、それがやがて建物のキャラクターを形成していくだろう。

最上階は居住者の交流できるコモンダイニングと位置づけていたが、すぐにイタリアン・レストランが入ることに決まり、居住者だけでなくこの地域の人々にとっても開かれたコモンダイニングとなった。

(北山恒氏 談)



所在地：世田谷区
用途：店舗・共同住宅
構造：RC造
規模：地下1階 地上5階
住戸数 6戸
企画：株式会社リブコム
設計：北山恒 + architecture WORKSHOP
施工担当：鯨津忠行
竣工：2008年4月
撮影：阿野太一

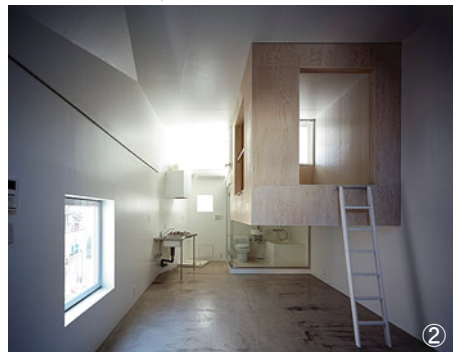
①中層階と最上階。三宿通り側の住戸は3階と2階を、反対側の住戸は3階と4階を占有する。室内の階段を下りる人の姿が空中庭園越しに見える。エレベーターホールも兼ねる建物南側の階段室はエキスパンドメタルで囲われており、住戸階にはセキュリティがかけられている②アクセスフロアの3階。中央の黒い廊下の両側に透明なガラスで仕切られただけの各住戸が並ぶ③最上階5階のコモンダイニング。全面ガラスの開口部、室内からテラスへひとつながりのデッキが心地よい

RIDGE



ワンルームに浮かぶ、箱型プライベート空間

学生や比較的若い人が多い町、大岡山での小さなワンルームマンションの計画である。ワンルームでは食べるのも寝るのも、プライベートも一つの空間。もてなしのスペースも持ちたいが、単にこもりたいという住まい手の願望もあるのではないかと。この二面性を満たすため、ロフト付きのものはよく見か



けるが、今回は逆の箱を考えてみた。つまり天井ではなく床がつながっていることで、本来のワンルームの広がりを持てきる空間である。1.4m空中に浮かんだ箱。その中に個室が納まり、外側にキッチンやバスルームが置かれている。1階の2戸は長屋のように外部に向かって並列し、2階は中央廊下に沿って4戸が連なる。最上階は、斜線規制による傾斜天井となっていて、その「箱」が床に置かれたような空間になっている。

「RIDGE」という名前は建物の尾根のような屋根の形状に由来するが、この街並みに合った親しみやすさを感じてもらえる建物になるのではと期待している。

(千葉学氏 談)



所在地：目黒区
用途：店舗・共同住宅
構造：RC造
規模：地上4階
住戸数 8戸
企画：野村不動産アーバンネット
設計：千葉学
/ 千葉学建築計画事務所
施工担当：佐須正和
竣工：2008年3月
撮影：西川公朗

①建物全景。真っ白な壁面、ランダムな配置の開口部②204号室。3350mmの天井高のワンルームに内包された箱型プライベートスペース。使い方は自由自在
③前面道路である商店街から見た建物。尾根のような屋根の形状が目玉④箱から見た外側の景色⑤2階共用廊下。黒いゴムシートと白い壁。入口は引戸で仕切られているが、上部がガラスのため、不思議な一体感がある⑥最上階302号室。屋根面にあけられた開口部が周辺の光を多方向から採りこむ

4月のある日、麻布十番のギャラリーで開かれた「第9回麻布私塾会」に行ってきました。講演のテーマは『知られざる硫黄島戦からの教訓』です。クリント・イーストウッド監督の映画化で話題になった第二次世界大戦末期の硫黄島戦は、戦争の悲劇を改めて多くの人に訴えました。麻布私塾会の塾長・渡邊春吉氏は、さらに映画では描かれなかった戦路上の数々の真実を明かすことで、現代の日本社会に横たわる行政の問題点や企業経営者が学ぶべき点を語ります。志ある大人たちが、自由に力強く語るさまざまな私塾的活動。若い人の閉塞感に穴をあける機会になるのでは、と感じました。

Haruyoshi Watanabe



撮影：アック東京

今月は、コインパーキング事業の傍ら、「麻布私塾会」を主催し、講演を行っている渡邊春吉氏に登場いただきます。

—コインパーキングを始められたのは平成6年、ちょうど平成不況の最中で六本木ヒルズがまだない頃ですね。

渡邊：自動車販売会社に勤めていた頃、毎日カタログをかばんに詰め込み、1日40件の飛込み訪問をしていたのですが、そのうちお客様に「車を売る前に駐車場を探して来い」といわれるようになり、次第に訪問件数より、駐車場探しの件数が増えてきてしまいました。そこで駐車場を提供する仕事の方が急務だと始めたのがコインパーキング事業です。

—私塾会はどういうきっかけで始められたのですか。

渡邊：最初はコインパーキング用地の地主さんたちの親睦を深めるために始めました。それが蓋を開けてみると、年配の方だけでなく、ヒルズ族と言われるベンチャー企業の方とか、若い方の参加も多くなりました。もともと私は歴史に興味があるのですが、父が昭和20年3月10日の東京大空襲で両親、兄弟を亡くし、疎開先で生き残って苦労した話を子供の頃からよく聞かされていました。昨年3月、50歳の誕生日を迎えるにあたって、その頃のことをよく調べてみたところ、東京大空襲当時まだ硫黄島では日本軍が戦っていた、という事実がわかってきました。そこで私塾会に参加する若い経営者に何か伝えられるのではないかと非常に興味をそそられたのです。企業セミナーでよくあるパターンが、「いかに売上や利益を上げるか」という視点に立ったものです。しかし、硫黄島戦の頃は戦争末期、そういう状況下で現代の企業活動に当てはめるとどういう対処が必要か。太平洋戦争時の島しょ防衛の中で、「硫黄島戦」というのはそれまでとは異なる特筆すべき戦いだったのです。圧倒的戦力の相手に対し、いかにうまく敵を引き付け、最小限の犠牲で最大の効果をえられるかに力点をおいた戦いでした。そのことを今の企業活動に当てはめて考えてほしいと感じました。

—映画「硫黄島からの手紙」の冒頭では、映し出されたアメリカ軍の軍艦の数に驚きました。あんな数だとは知りませんでした。圧倒的な物量の差、その中で指揮官の栗林忠道中将は絶望的な戦いに挑んでいくわけですね。

渡邊：栗林中将はまず、戦闘に関係のない島民を避難させ、部下には「自爆自決はもとより、バンザイ突撃はするな」と命じます。上官の部下への鉄拳制裁を禁じ、非常に現実的な知略に富んだ指揮官でした。中小企業の経営者の中には、経営が悪化するとまづリストラと称して従業員の

頭数を減らすことから始める人がいます。しかし栗林中将の戦い方をみると、決してそういう方法が正しい道ではないことがわかります。

渡邊：それから、例えば当時の政治や歴史が現在の社会にどう影響しているのか、若い人にはきちんと理解しておいてほしいですね。これからどんどん外国の人と接することが増えると思うのですが、外国人が日本の歴史を知っていて日本人自身が知らないということでは間違った解釈を主張されたときに自信をもって抗弁できません。外国から見る史観と自国民としてみる歴史観は当然違います。熱い議論が続かないようでは、本当に日本という国を理解せしめることにならないでしょう。謝罪すべきところはすべきですが、戦後63年間の日本は1人の外国兵も傷つけてはいないし、そういう戦争も紛争もしなかった。それを我々は誇るべきだと思うし、それに勝る反省はないのではないのでしょうか。

—栗林中将自身は、実際に国際的な方だったようですね。

渡邊：陸軍内で対米戦反対を唱えた少数派だったのに、戦争末期に島の防衛を担う役どころが廻ってきて皮肉な運命の巡り合わせを感じますね。大本営には「本土防衛のための時間稼ぎ」という目的がありましたが、栗林中将には「終戦交渉のための時間稼ぎ」という願望がありました。また従来の水際撃滅戦法を主張する現地海軍に対し、後方配備による持久戦を主張しました。物資の補給も不足し、結局大本営は2万人の将兵を残置させたまま本島放棄の決定を行います。悪条件にもかかわらず、栗林率いる守備隊は圧倒的な数の敵に多大な人的損失を与えて、36日間にも及ぶ出血持久戦を展開します。その結果、米国市民の深い失望から責任追及論が沸き起こり、勝利者であったはずのH・スミス中将の辞任だけでなく、時のF・ルーズベルト大統領の政治生命をも短くしました。要するに戦いとはどんなに悪条件が重なっても、弱者には弱者なりの戦略があり、それに基づいた確かな戦術を日々精一杯なし得ることが、事態の好転に繋がるものと私は思うのです。この後は、藤田まことさん演じる「明日への遺言」をテーマに横浜裁判について講演を行う予定ですが、硫黄島戦へのアンコール講演が続いてなかなか始められません。あるロータリークラブでのときなどは、戦時中硫黄島へ出征するはずだったのに行けずに生き残ったというご老人が私に対して謝ろうとします。それくらい苦い思いで生きてこられた。そんな方のためにもこの時代のテーマを風化させてはならないと思います。

「弱者には弱者なりの戦い方がある。硫黄島戦での栗林忠道中将に、経営者が学ぶところは多いですよ」

渡邊春吉

1957年東京都生まれ。日本大学卒業。

東京日産自動車販売(株)入社。その後渡米。米国インディアナ州立大学入学。

帰国後、1985年麻布自動車(株)入社。1994年同社退社。

同年、「麻布スペースサービス(株)」設立。代表取締役。

2007年「麻布私塾会」を立ち上げ、同塾長就任、講演活動開始。

『知られざる硫黄島からの教訓』発表。

英語でのアメリカ軍司令部の電話のやり取りなど、BGMも織り交ぜた演出で、聴衆の気持ちをそらさない。



メンテ魂

その後、
お住まいはいかがですか

第8回 トモエそろばん本社

所在地：新宿区
用途：事務所
構造：鉄骨造、一部RC造
規模：地上3階
設計：高山勝樹 / 開地総合企画
竣工：2002年9月



今月は、2002年竣工の四谷の「トモエそろばん」のオフィスに伺いました。こちらの建物は、1階がオフィス、2、3階がそろばんや英会話の教室で、3階の奥にそろばんの貴重な歴史的資料を集めた「そろばん博物館」を設けています。現場担当主任の中川と伺い、社長の藤本トモエ様にお話を聞かせていただきました。

藤本：地下の換気のためのポンプがおかしいこと以外には、特に問題はないですが、6年くらい経つと外壁の撥水剤の再塗装や、コーキングの修理が必要になってくるのでしょう。

中川：まだ大丈夫ですが、この規模のビルだと足場を組むだけで結構な金額がかかるので、外壁の塗装時期に合わせて行なうといいですね。一幅射冷暖房機のPSの具合はいかがでしょう。各階に設置されていますが。

藤本：夏の暑いときや冬の寒いときに運転した後、春や秋はしばらく止めていますが、再稼動時に正常に起動しないときがあったので、メーカーの方に何度か調整してもらいました。定期的にメンテナンスにも来てくれます。何しろ、空気がきれい、身体にやさしいので、エアコンよりも気に入っています。教室に来る小さな子供たちの安全を考えると、ストーブやヒーターのような「やけど」の心配をする必要がないのもいいですね。

中川：エアコンは、室外機のフィルターやモーターの掃除をまめにしないと、結構ゴミやホコリが詰まります。それから、最近ではエアコンを見えないように、ガラリ戸の内側に仕舞い込む設計をされる先生もいらしますが、ショートサーキットを起こして、センサーが冷氣（暖気）をすぐに感知して、部屋全体の空気が冷やされない（暖められない）うちに運転がストップしてしまうこともあります。吹き出し口の向きを変えたりなど対応を求められることもあります。基本的にはガラリを取らないと効きません。結局、後になって建て主さんがはざされるというケースもあります。一省エネの観点からも、あまりよろしくないのじゃないですか。

中川：それから、意外と知られていないのですが、真冬の本当に寒い時期、室外機に霜が下り、モーター周りが凍りつくと、その霜を溶かすまではエアコンが稼動しないのです。凍りつかない工夫が必要で、寒さ対策はエアコン以外にも必要になってきますね。

—セキュリティ面では、どうですか。

藤本：実は1度夜中に泥棒に入られました。2階の窓の鍵がかかっていなかった、という単純なミスなのですが、鉄格子を1階だけでなく2階にも入れてもらい、鍵も2重鍵にしました。

改めて見ると、この事務所は窓が多すぎますね。教室運営上、壁面が少ないのもいろいろと困ります。東側の窓は絶対に開けないので、つぶして壁にするとすると、どうなのでしょう。

中川：窓だけふさぐ、というわけにはいかないもので、全体的に壁一面というと躯体をいじることになって費用が割高ですね。

藤本：変更といえば、1階トイレの朝顔（男性用小便器）と洋式（大便器）の個室の仕切り壁をなくしてもらったのは良かったのですが、洋式の向きも広くなった入口側に向けてもらえばよかった。奥の壁に面した左足が窮屈です。

トイレといえば、面白い発見があるの。最近の男の子たちは、朝顔をほとんど利用していません。洋式に座って小用を足しているようです。

—確かに、男の子に洋式便器の前に立ってするのを許していない家庭がある、という話も聞きます。

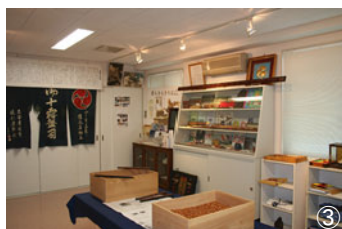
藤本：まして、見たことない朝顔にはできないでしょう。

中川：立ちションそのものができない男の子というのも出てくるかも。—公共の建物でも、トイレの便器の比率やスペースの割合も将来は変わってくるのでしょうか。今は男子トイレの中での朝顔と洋式便座の比率はどんなものですか。

中川：2：1 か3：1で朝顔が多いのではないですか。イベント入場者の割合を見て、看板だけ付け替えるパターンもあるとか。

藤本：日本男児が弱くなっている一因がそこにもあったりして。

—そうですね。今日はどうもありがとうございました。



①1階オフィス。幅射式冷暖房機器PSは仕切りと冷暖房の空調の役目を果たしている②3階教室。小さな子供たちが触れても安心③3階のそろばん博物館。見学には予約が必要④1階トイレ。もともとの計画では、洋式トイレは個室になっていたが、スペース確保のために壁をはずした。

TOPICS/INFORMATION

「（仮称）西麻布3丁目住宅新築工事 地鎮祭」 6月22日



コンクリート打ち放しの住宅です。1階は賃貸、2-4階までがオーナー邸となる予定です。

構造：RC造
規模：地上4階
用途：専用住宅
設計：テストアソシエイツ

「青山ガーデン 上棟式」 6月19日



1Fは洋菓子店ウェストの店舗、2Fがテナント、3Fが菓子工場となります。

構造：RC造
規模：地上3階
用途：店舗・作業所
設計：樫村建築設計事務所
完成予定：2008年10月

編集後記

・アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。暖かいお言葉を多数頂戴し、今後の励みとなりました。